

# 対日関係の深化とご縁が繋ぐ平和

吉岡優里

## 1. 始めに

2026年3月18日から3月24日まで7日間の対日理解促進交流プログラム JENESYS2025・2024Phase II 台湾派遣に参加した。台湾に行くのはこれで2度目だが、ただの旅行では経験できない企業訪問や台湾人との交流を通して、大学生の私を感じたことを大きく2点に分けて書き記したいと思う。

まず日台関係の重要性についてだ。今まで台湾が日本にとって重要な位置づけであると考えたことはなかった。しかしこの派遣に参加してから台湾が日本にとって特異な位置づけであること、その重要性について考えることができた。そしてこの派遣で出会った人々のご縁についてだ。今後もこの貴重な機会を通して得た繋がりを大切に、今後の日台関係のさらなる発展に繋げていきたい。

## 2. 日台関係の戦略的意義

日本にとって外交的、政治的に重要な国はどこだろうか。私はこの質問に対して本プログラムに参加するまで米国と迷わず答えていたに違いない。しかしプログラム参加後本当に米国だけだろうかと自問するようになった。米国は日本の唯一の同盟国であり、多くの日本人が米国との関係強化は重要だと考えているだろう。もちろん日米関係は様々な点において重要である。だがしかし、私は東アジアに位置する日本にとってより近隣国であるアジア諸地域との関係強化がより重要なのであり、もっと焦点を当てて考えるべきなのではないかと思うようになった。その中でも台湾は東日本大震災の際に「加油日本」というスローガンの下、支援をしてくれたことから分かるように非常に親日である。今回の滞在を通して、こんなにも多くの台湾人が日本語を話すことができ、日本が好きだ、また行きたいと言ってくることにとても驚いた。親日感情というものは短期間に醸成できるものではないからこそ、その感情をさらに拡大しさらなる関係構築に努めていくことは長期的に日本にとって大きな利を生み出すと考えた。

近年、ロシアによるウクライナ侵攻やガザ地区への攻撃など世界情勢が不安定な日々が続いている。そんな不確実な世の中だからこそ、地理的な近さ、先進的な技術、強い親日感情という3点を兼ね備えた台湾をもっと重要視しなければならないと感じた。まず地理的に近いということは有事の際にも連携が非常に取りやすく、何かに付け協力がしやすい。そして半導体をはじめとした先進的な技術については、日本も高い技術力を持っているが成果を共有し合うことでお互いにとってさらなる発展を目指すことができるだろう。最後に、親日感情がある国とない国では協力のしやすさが全く違うと考えた。親日感情というものは急に創り出すことはできないし、先人が築き上げてきた親日風土を失わぬよう今後もさら

なる関係発展を図ることが重要である。

しかしこの日台友情を強固なものにするには課題が2点あると感じた。

1 点目は近年の台湾人の親日理由は日本のポップカルチャーや観光に対する魅力が占める部分が多いのではないかということだ。より深い理解である日本の外交や政治について詳しい台湾人がどれほどいるだろうか。今回の交流でも多くの台湾学生が漫画やアニメ、キャラクターに愛着を持ってきていることは見受けられた。もちろん文化から日本へのプラスの感情を抱いてくれることは最初の一步として適切だ。しかしそこからより日本という国を理解し、本質的にプラスの感情を抱いてもらうために外交姿勢や政治情報についても今後発信していくことが必要だろう。

2 点目は日本人の台湾への関心と深い理解を高めることだ。プログラム中に台湾から日本へのインバウンドが 2023 年に約 420 万人程度だった一方で日本から台湾へのアウトバウンドは約 93 万人と少なく留まったということを知り、日本の人口のほうが圧倒的に多いのに日本に来る台湾人の方が多いことにとっても驚いた。これではあまりにも一方通行である。そして私の周りにいる台湾に行ったことがある人は私も含めほぼ全員台北のみ訪れている。しかし、台湾人に聞くと東京だけでなく大阪や福岡、北海道など様々な地域を訪れていることが分かった。日本人の様々な地域に分散した台湾渡航を促し、より台湾を身近に感じてもらうことが求められるだろう。加えてなぜ台湾は日本統治時代があるのに親日なのだろうかという疑問に思い調べてみた。するともちろん統治は良いことばかりではないが、統治時代のインフラ整備や環境整備が台湾発展の基礎になったという歴史や、ダム建設などに尽力した日本人の存在が分かった。このような先人が創り上げてきた歴史を日本人がもっと知ること、そして日本統治時代が台湾にあることさえ知らない日本人も多いと思うのでより日本と台湾の関係性、歴史について深く理解することを目指すべきではないだろうか。

### 3. ご縁が築く安全保障

私は今回のプログラムを通して「ご縁」を強く感じた。どんな人にも出会うべくして出会う、だから出会った人々から多方面に影響を受け、与えながら成長していきたいという思いを持ちながら生きてきたが、今回このご縁の大切さを強く感じる事ができた。初日に訪問した日本台湾交流協会台北事務所では「有縁千里来相会、無縁対面不相逢。」という言葉についてお話をいただいた。縁があれば千里の遠くからでも出会えるが縁がなければ近くにいても一生知り合うことはないという意味である。今回出会った台湾学生、到着から最後までエスコートしてくれた事務局の方々、訪問先の企業の方々、全ての人に出会えたことは深い縁が繋いでくれたからだと思う。今後も繋がった縁を長く強く継続させる努力をし、単に出会っただけで終わらない将来に渡った繋がりにしていきたい。

そして、今回多く台湾人と出会ったことで最も強く感じたことは、対面でその地域の人々と出会い、言葉を交わし、共に過ごすことは最大の戦争抑止力になるのではないかということ

だ。戦争は相手への理解がないことから生まれる疑念や思い込みによって始まるのではないかと考えている。もしお互いに相手の顔を知り、理解をしようと努力していたら、侵略や攻撃をしたとは思わないだろう。一国民レベルの小さな話かもしれないがより多くの人々が交流をすることで大きな抑止力となり、平和への近道となるのではないだろうか。

#### 4. 終わりに

この訪問を通して台湾の親日さを肌で実感し、日台関係について考える良い機会となった。そして本プログラムがなければ出会うことがなかったであろう台湾人たちに出会い、言葉を交わせたことは一生の思い出となるだろう。私はこの3月に大学を卒業し社会人になるが、今後のキャリアにおいて中長期的には民間レベルでの日台の企業同士の協力や、日本企業の台湾進出に貢献できるようなプロジェクトに参加してみたいと考えている。20代前半という今後のキャリアについて考え出す時期に、このような貴重な機会をいただけたことを心から感謝申し上げたい。この経験を活かして今後の日台関係のさらなる発展、対日理解を促進できるよう国に貢献していきたい。

